

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	スポーツ法学（Sports Law）		
ナンバリングコード	E30705	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 応用レベル スポーツビジネス
単位数	2	配当学年 / 開講期	3 年 / 前期
必修・選択区分	コース必修: スポーツビジネスコース 選択: 地域マネジメントコース、Bソリューションコース、会計ファイナンスコース、こども・福祉コース コース選択必修: 情報メディア学科 情報コミュニケーションコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E042601	クラス名	-
担当教員名	鈴木 照夫		
履修上の注意、 履修条件	他の科目の修得を履修条件とすることおよび人数制限は行いません。 講義内容をしっかりとノートにとってください。 私語をしないようにしてください。 携帯電話等は電源を切って鞆の中にしまっておいてください。		
教科書	特になし		
参考文献及び指定図書	講義の進行に従って適宜紹介します。		
関連科目	憲法A、憲法B、行政法、民法ⅠA、民法Ⅱ、労働法		

○基本情報		
授業の目的	今日、スポーツをめぐる法的問題は、選手の契約・移籍に関する問題、肖像権に関する問題、事故に関する問題、ドーピングと人権の問題、スポーツ団体と競技者との関係に関する問題、その他多岐にわたり、また急増しています。また、一口にスポーツ法と言っても、スポーツ基本法などのスポーツに関する特別な法律だけでなく、民法、労働法その他さまざまな法分野が関わり、さらに、スポーツルールや団体規約などのスポーツ固有法もあります。本講義では、このように複雑多岐にわたるスポーツ法の現代的課題について、幅広く理解することを目的とします。	
授業の概要	・スポーツ法とは ・スポーツ権 ・スポーツ紛争と仲裁制度 ・スポーツ事故の法的責任 ・プロスポーツ選手の法的地位	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	スポーツの世界も法とは無縁ではないことを理解し、スポーツに関する法的問題に取り組むことができる。	10点		
【知識・理解】	スポーツ法の現代的課題に関する基本的知識を身につけている。	70点		
【技能・表現・コミュニケーション】	スポーツに関する法的問題を的確に説明することができる。	10点		
【思考・判断・創造】	法的思考に慣れる。	10点		

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。

○その他

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科目名 担当教員	スポーツ法学（Sports Law） 鈴木 照夫	授業コード	E042601
学修内容					
1. スポーツ法学の意義					
日本では、スポーツに関する法律が体系的に整備されているわけではありません。また、従来はスポーツに関する法律問題も各法分野で部分的に議論されてきたにすぎません。しかし、ようやく20数年前からこれを体系的に研究する必要性が認識され、スポーツ法学という用語も定着してきました。この新しい法分野であるスポーツ法学の意義を学びます。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理				約2時間
2. スポーツ法の法源					
法源とは法の存在形式をいいます。これには、成文法(制定法)と不文法とがあります。成文法には憲法、法律、命令、条約、条例などがあり、不文法には慣習法、判例、条理などがあります。スポーツ法の法源を順次概説します。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理				約2時間
3. スポーツ権とスポーツ基本法					
スポーツをする権利＝スポーツ権の法的性格について学びます。スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人の権利であると宣言するスポーツ基本法の概要を説明します。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理				約2時間
4. スポーツ紛争とスポーツ仲裁制度					
スポーツをめぐる紛争には、裁判所での解決になじまないものがあります。また、わが国の裁判制度の現状(裁判の長期化、費用が高額等)からは、裁判によっては本当の意味での救済が得られない場合もあります。そこで、裁判外の代替的紛争解決手続きの必要性が説かれていました。日本では、2003年6月に日本スポーツ仲裁機構が設立されました。その制度内容と課題について解説します。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理・千葉すず事件についてレポート作成				約2時間
5. スポーツと人権(1)－外国人に関する問題					
スポーツは、国籍・人種・言語等を超越して、平等に参加し競技できることが原則です。しかし、実際には外国人の国内大会での参加には、なお制約があります。また、いわゆる「外国人選手枠」もあります。これらの問題について考察します。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理・事例について考える。				約2時間
6. スポーツと人権(2)－ドーピングをめぐる問題					
ドーピング検査は、「すべてのスポーツ選手の利益のため、スポーツ界での公正に寄与するため」実施されています。しかし、検査が選手のプライバシー等を侵害することにはならないのか、判定結果・処分の不透明性、等が問題となります。この点を考察します。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理・事例について考える。				約2時間
7. スポーツ事故と法的責任(1)－総論					
スポーツ事故について刑事上・民事上の責任が問題となる場面を解説します。さらに、スポーツに「内在する危険」、「危険の引き受け」等の理論について学びます。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理・事例について考える。				約2時間
8. スポーツ事故と法的責任(2)－刑事責任					
スポーツ活動において事故が生じた場合に、これに関与した人々が刑事責任を問われることがあり得るのか、について学びます。とくにスポーツ大会などの主催者または指導者が責任を問われるのが問題となります。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理・スポーツ事故の刑事責任についてレポート作成				約2時間

○授業計画		科目名 担当教員	スポーツ法学（Sports Law） 鈴木 照夫	授業コード	E042601
学修内容					
9. スポーツ事故と法的責任（3）－民事責任					
スポーツ事故における民事上の責任について、責任を問われる当事者の類型ごとに検討します。具体的な裁判例をもとに、その注意義務の内容・程度を考察します。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理・スポーツ事故の民事責任についてレポート作成				約2時間
10. スポーツ事故と法的責任（4）－施設・設備の瑕疵					
施設・設備の瑕疵を理由とする損害賠償責任について学びます。どのような場合に瑕疵があったとされるのか、という判断基準について具体的裁判例をもとに考察します。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理・事例について考える。				約2時間
11. プロスポーツ選手の法的地位（1）					
わが国のプロスポーツ選手の法的地位について、まず代表的なプロ野球選手の契約制度、ドラフト、FA制度、ポスティングシステム、仲裁制度、参稼報酬調停制度等を取り上げ学びます。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理・事例について考える。				約2時間
12. プロスポーツ選手の法的地位（2）					
労働組合日本プロ野球選手会について学びます。設立の経緯、労働委員会の資格審査、活動の概要、ストライキ等について解説します。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理・プロ野球選手会のストライキについてレポート作成				約2時間
13. プロスポーツ選手の法的地位（3）					
Jリーグの選手契約制度、移籍制度、代理人制度、仲裁制度、障害補償等について学びます。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理・事例について考える。				約2時間
14. プロスポーツ選手の法的地位（4）					
前3回のまとめとして、プロ野球とJリーグの契約制度等の比較検討を行います。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理・演習問題				約2時間
15. プロスポーツ選手の法的地位（5）					
演習問題の解説を行います。 アメリカ4大プロスポーツリーグやヨーロッパのプロスポーツ選手（とくにサッカー）と日本のプロスポーツ選手の法的地位について比較比較検討を行います。					
予習	講義資料をノートに筆写し、よく読み込み理解する。				約2時間
復習	ノート整理・ボスマン判決についてレポート作成				約2時間
16. 期末試験					
第1週から第15週までの内容について試験を実施します。					
予習					
復習					